

防災意識を高める活動を、市原八幡から世界に発信します。

令和元年度からカリキュラムに組み入れた、学校設定教科・科目「防災の学び」とは、自分と自分の大切な人の命を守るための学習です。日本は、自然災害の多い国です。世界で起こる自然災害のほとんどが日本で起きています。過去の災害を振り返ってみると、ある程度の知識があれば助かった命がたくさんあるのではないかと考えます。

いつ誰にでも、訪れる自然災害に関する知識を深め、様々な防災に関する意識を高めることは、全世界的な環境課題に応じて採用できる明確なガイドラインを築く基本となります。私たち、市原八幡高校生は、地域の身近な防災活動から、全世界に共通する防災意識の向上につながる探究活動を通して、持続可能な開発目標SDGSの実現と、一人一人が世界市民として活躍できることを目指し、「防災の学び」に取り組んでいます。主体性や問題解決能力、発信力やコミュニケーション能力などを育成しています。

学習内容

1 千葉県消防学校防災研修センター 防災士会による高校生向け防災研修受講

1学年6クラス生徒が、それぞれのクラス毎に、初期消火・応急救助・ロープワーク・心肺（AED）・担架搬送等を順次体験しました。

2 千葉県消防課と連携して、地域消防団の活動内容を学び、消防団の意義と必要性を認識しています。市原市消防団の方が、操法のデモンストレーションと、広報活動用パネルシアターを実演してくださいました。

3 帝京平成大学と連携して、心肺蘇生法講習会を実施しています。

卒業生もいるので、とても親しみやすい雰囲気の中ですが、真剣に「命にかかわる大切な蘇生法」を教えてくださいました。

4 1・2年次を通して、学年全体で同じ授業が展開されます。

学校独自に作成した教材を基に、同じ内容の授業がクラス単位または学年全体で行われます。クラス単位では、ICTを活用したグループワークや調べ学習・発表活動など、主体的で対話的な学習活動が盛んにおこなわれています。

5 令和元年台風15号の被害に関する調査及びフィールドワーク

1年次の秋季休業中（今年度は、台風15号の被災あと）に、地域を歩き、地域の被害現状を確認します。これからの人々にとって、災害に強いまちづくりのアイデアをレポートにまとめます。

現在、八幡地区の防災マップを作成するとともに、台風15号に関するレポートを班ごとに作成しました。教室・廊下への展示だけでなく、PDF処理してWEB発表ができるか研究中です。

6 次年度（2年次）は、外部機関の専門家を招聘して研究発表大会ができるように、それぞれが課題研究を始めます。

小学生と一緒に地域を歩き「安全マップ」を作成したり、生徒が防災教材を考え、小・中学校等での授業教材を作成し提案します。学んだ防災の知識を次世代に語り継ぐ機会について考え、研究の成果物は、学校ホームページ等でWEB発信する計画です。

災害リスクと防災損失の削減を目指すグローバルな計画って何？

国連防災世界会議で採択された防災枠組みです。災害リスクの対象を、環境的、技術的、生物的ハザードをも含めた形にまで広げました。災害管理に対する考え方が変わり、その対象が自然ハザードを越えて進展しました。

令和元年度「防災の学び」活動報告

千葉県消防学校防災研修センター 防災士会による高校生向け防災研修



1 学年生徒 (240 名) が、防災に関するさまざまな訓練を体験しました。

千葉県消防課と連携した、地域消防団の活動内容の学び



帝京平成大学と連携した、心肺蘇生法講習会

女性消防団員の方々による、広報活動用パネルシアターの実演

学校独自に作成した ICT 教材を基に、同じ内容の授業がクラス単位または学年全体で行われます。

学校設定教科・科目「防災の学び」は、多くの外部機関や上級学校、地域との連携を深めながら実施しています。



次年度 (2 年次) は、外部機関の専門家を招聘して研究発表大会ができるように、それぞれが課題研究を始めます。